

新たなステージを切り拓く ^{ひら}平成29年度予算案

平成29年度予算案は、「すみだの夢」実現に向けた着実な事業推進により、新たなステージを切り拓く予算として編成しました。新基本計画策定後に編成する初めての予算として、「すみだの夢」の目標達成に向けた「夢」実現プロジェクトに掲げる各施策の着実な推進を図ります。また、時代の変化に果敢に挑戦し、選択と集中による事務事業の見直しや、更なる行財政改革を図ります。なお、この予算案は、現在開催中の平成29年第1回区議会定例会で審議されています。
 [問合せ] 財政担当 ☎5608-6232

総額	1704億6200万円(+1.3%)
▶一般会計	1111億6800万円(+0.7%)
▶国民健康保険特別会計	335億6000万円(-0.5%)
▶介護保険特別会計	204億6800万円(+6.7%)
▶後期高齢者医療特別会計	52億6600万円(+3.9%)

* ()内は、28年度当初予算と比べた増減率です。

新基本計画に掲げる「夢」実現プロジェクト

「暮らし続けたいまち」の実現

●待機児童の解消 17億1505万9000円



保育定員を500人拡大して、待機児童ゼロをめざします。そのために、保育所の円滑な開設・運営を支援します。また、新たな認可保育所の整備に伴い、隣接する公園のリニューアルも進めます。

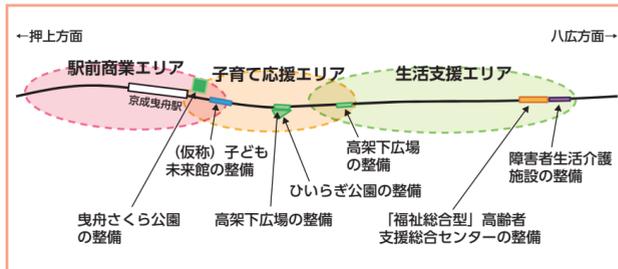
●笑顔あふれる在宅子育て支援事業 2億6119万3000円

在宅で子育てをする方への支援として、乳幼児～小学生とその保護者が気軽に集い憩える場である「(仮称)子ども未来館」を整備するほか、地域プラザを活用した子育て相談や一時預かり事業を行います。



●京成押上線立体化に伴うまちづくり 7億1749万8000円

京成押上線(押上駅～八広駅間)の連続立体交差事業により新たに生み出された高架下空間等を活用することで、地域のにぎわいを創出し、多様なニーズに対応したまちづくりを推進します。



「働き続けたいまち」の実現

●(仮称)すみだビジネスサポートセンターの開設 6273万9000円

実践的経験と専門的知識を有する「産業コーディネーター」を配置し、経営に関する相談やものづくり支援をワンストップで行う「(仮称)すみだビジネスサポートセンター」を開設します。



「訪れたいまち」の実現

●すみだの「おもてなしの心」を発信! 550万円

外国人旅行者が、英語メニュー設置店を巡り、すみだならではの魅力ある個店や下町グルメを知るツアーを開催します。



英語メニュー設置店に配布しているステッカー

▼ユニバーサルツーリズムの推進 300万円

誰にでもやさしい観光地すみだの実現に向け、高齢者や体の不自由な方などが安心して楽しく観光できるモデルコースを構築し、そのツアーの商品化を図ります。



未来を切り拓く。～文化芸術と人とが繋がって～

文化芸術と人とがつながる

●すみだの「夢」応援助成事業 5000万円

墨田区を拠点とする文化芸術活動や地域力の向上に効果的なプロジェクトを募集し、採択されたものには、ふるさと納税の仕組みを活用したファンドレイジング(資金調達)の機会を提供します。



区制施行70周年記念

●区制施行70周年記念事業 544万5000円

▼区制施行70周年記念映像制作&PR動画コンテスト 474万5000円

これまでの墨田区の沿革から将来像までを表現した動画を制作します。また、年齢別にエントリー枠を設け、誰でも参加できるPR動画コンテストや小学生を対象に親子で楽しめる動画制作の体験講座を開講します。

▼10年後の未来図事業 70万円

平成29年度の小学校4年生を対象に、10年後の墨田区や自分の夢等を描いてもらい、新成人として参加する「成人を祝うつどい」で振り返ります。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて

●東京オリンピック・パラリンピック関連事業 600万円

パラスポーツの体験などを通じて、相手を思いやる心を育み、共生社会の実現をめざします。



パラリンピアンによるトークショー(イメージ)

●掲載した事業は、予算案に計上した事業の一部です。予算案の詳細は問い合わせるか、区ホームページをご覧ください。

HP 区ホームページで検索する場合は、「記事のタイトル」で検索

誰でも簡単! 今日から始める!

日常備蓄

首都直下地震等の大規模地震発生時には、電気・ガス・水道などのライフラインが寸断されたり、物資の入手が困難になったりすることが考えられます。こうした局面を乗り切るには、日ごろから食糧品や生活必需品を備えておく日常備蓄が不可欠です。この機会にぜひ、日常備蓄を始めましょう。

[問合せ] 防災課防災係 ☎5608-6206



少しの工夫でできる日常備蓄

日常備蓄とは、災害時に必要な食糧品や生活必需品を、日ごろから備えておくことです。特別なものを用意する必要はなく、普段家庭で利用している食糧品や日用品をいつもより少し多めに買い置きするだけで、災害時、ライフラインが寸断された中でも当面、自宅での生活が可能になります。早速、今日から実践しましょう。

日常備蓄のイメージ(ランニング・ストック方式)



チェックしてみましょう! 主な備蓄品目(一例)

- 水(飲料用・調理用・生活用)
- カセットコンロ・ガスボンベ
- 常備薬(市販薬)
- 主食(レトルトごはん・乾麺等)
- 缶詰
- ビニール袋
- 洗面用具・タオル
- 生理用品
- 離乳食等(乳幼児)
- 使い捨てカイロ
- ウェットティッシュ
- トイレトペーパー
- 簡易トイレセット
- 懐中電灯
- 乾電池
- 携帯ラジオ
- 携帯電話・スマートフォン用の予備バッテリー
- 使い捨てのビニール手袋

この他にも、各家庭に必要なものは、日常備蓄しておかないとね。



[参考] すみだ防災パンフレット「地震に備えて」
*パンフレットは防災課(区役所5階)にて配布中

日常備蓄 5つのポイント

1 冷蔵庫は食糧品備蓄庫

食糧品の性質を見極め、使う順序を考えて消費すれば、普段あるものでも数日間は食べつなぐことができます。



2 生活用水は大切に

常に風呂に水を張っておけば、断水時にトイレの排水などに使用できます。



3 使用期限は定期的にチェック

電池、カイロ、薬などの使用期限を定期的に点検しましょう。



4 一人暮らしの方の備蓄

一人暮らしの方は、近所のお店でも手軽に買える缶詰やカップ麺など、自分の好みのもをいつもより少し多めに買い置きしておくだけでも備蓄になります。



5 オール電化住宅の必需品

オール電化住宅では、停電に備えて、カセットコンロ・ガスボンベを用意しておきましょう。



以上のポイントに気を付けて、日常備蓄を始めよう!



[参考] 東京都 防災ブック「東京防災」
*詳細は、東京都防災ホームページを参照
*全国一部書店にて1冊140円(税込)で販売